



主催：文化庁、公益社団法人日本芸術家団体協議会 共催：京都府 特別協力：近畿日本ホールディングス株式会社
 協力：公益社団法人日本舞踊協会、公益社団法人上方落語協会、一般社団法人長鳴協会、一般社団法人共同通信社
 公益社団法人日本芸術家団体協議会 美演芸術振興部 〒160-8374 東京都新宿区西新宿6-12-30 芸能花伝舎2階
 TEL: 03-5909-3060 FAX: 03-5909-3061 Email: takaramono@geidankyo.or.jp

2017年7月1日(土) 京都府精華町・けいはんなオーブン・パフォーマンスセンター
 (日本遺産サミット)内 キックオフ・パフォーマンス
 2017年7月2日(日) 京都府宇治市・萬福寺
 2017年10月14日(土) 福井県小浜市・旭座(予定)
 2017年10月15日(日) 富山県高岡市・瑞龍寺(予定)
 2017年10月~11月 広島県尾道市・浄土寺(予定)
 2017年10月~11月 鳥根泉津和野町・永明寺(予定)

2017年度開催予定
 「ニッポンたからものプロジェクト～日本遺産×Live Art」

「茶の湯」の精神を現代に伝える「茶の湯」の精神を現代に伝える
 味木館 茶の湯の精神を現代に伝える
 (京都府宇治市、#333333)

「茶の湯」の精神を現代に伝える

「茶の湯」の精神を現代に伝える

「茶の湯」の精神を現代に伝える

「茶の湯」の精神を現代に伝える

「茶の湯」の精神を現代に伝える

「茶の湯」の精神を現代に伝える

「茶の湯」の精神を現代に伝える

「茶の湯」の精神を現代に伝える

「茶の湯」の精神を現代に伝える

「茶の湯」の精神を現代に伝える

「茶の湯」の精神を現代に伝える
 (京都府宇治市、#333333)

茶の湯の精神を現代に伝える



④ 茶の湯

③ 茶の湯



② 茶の湯

① 茶の湯

「茶の湯」の精神を現代に伝える



ニッポンたからものプロジェクト

日本遺産 × Live Art

京都公演

日本茶八百年の歴史散歩

日時＝二〇一七年七月二日(日) 十二時三〇分開演

会場＝黄檗宗大本山萬福寺 松隠堂

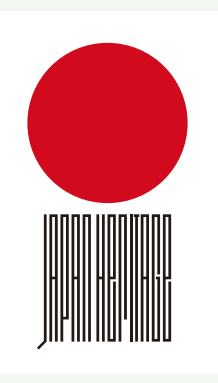
NIPPON
 TAKARAMONO
 PROJECT

ニッポンだからものプロジェクト

日本は魅力に溢れています。私たちは、その「たからもの」にまだまだ気づいていないかもしれません。「ニッポンだからものプロジェクト」は、日本遺産の特別な空間の中で、知っているようで知らない「日本遺産」と「伝統芸能 (Live Art)」を結び、やさしく、あたらしい光を当ててみます。気軽に立ち寄ってみてください。きっといろいろな見方が変わるはず。そう願っています。

日本遺産とは

地域を特徴づける歴史的な「ストーリー」を文化庁が「日本遺産」として認定し、関連する様々な文化財をパッケージ化する新しい取り組みです。伝統建築・景観・芸能などの文化財を、日本遺産ストーリーの中で眺めてみると、一つひとつに「人の営みがあって、”想い”が見えてきます。そして、その物語の先端で生きている地域の”今”が、色鮮やかに浮かび上がってきます。それはとても魅力的な体験です。文化庁は2020年までに100のストーリー認定を目指しています。全国各地を好きになれるチャンスです。自分と縁のある地域も違って見えてくるかもしれません。



当地の日本遺産 「日本茶800年の歴史散歩」

京都府の山城地域は、日本茶の「ふるさと」。日常の食卓に欠かせない「煎茶」、今や世界で愛される「抹茶」、高級茶として名高い「玉露」のすべてがここから生まれました。より良いものを目指し、しのぎを削り、日本茶の発展をリードしてきた歴史があります。今でもその薫りは至る所に息づいていて、山城地域に来れば、美しい茶畑や茶問屋街などの景観、お茶にまつわる儀式や祭りなどに合うことができます。このような歴史的ストーリーが「日本茶800年の歴史散歩」として日本遺産に認定されています。本日は短い時間ですが、ほんの少しだけ散歩に出かけてみましょう。

プログラム

落語「お楽しみ」 桂吉坊

座布団の上に乗って喋るという独特のスタイルの中で、お客様のイメージを無限に引き出す工夫が落語には多くあります。言葉の重なりから産まれる世界を皆さんに楽しんでいただきたいと思います。とにかく、予習不要の芸能ですので、ゆるりとご覧いただけます。 (桂吉坊)

京舞 地歌「茶音頭」

舞 井上安寿子 三絃・歌 菊寺智子 箏 菊萌文字

京都の地で発展した京舞。辛気臭くとつきにくいとお思いかもしれませんが、御覧いただいた方々の想像力を掻き立てられる舞を舞えるように同じときを過ごせましたことを願っております。

「茶音頭」は茶の湯にちなんだ曲で、歌詞にもお道具や銘柄などを縁語でつづりながら、男女の縁を描いています。今回は、御煎茶と縁のある萬福寺さんで、私に似合わぬものですが、しっとり舞える様おめさせていただきます。(井上安寿子)

トーク「お茶と人と歌と」 坂本博司

長唄「越後獅子」

唄 今藤政子 今藤和歌美 三味線 今藤長三朗 今藤敏之
笛 藤舎貴生 小鼓 中村壽慶 大鼓 中村翔哉 太鼓 藤舎清穂

長唄は、先行する様々なジャンルの要素を取り入れた、言わば「総合デパート」のような音楽。曲数が多く、多彩な表現を持っています。三味線と囃子の掛け合いなど、分かり易くウキウキする曲が多いのも特徴です。

「越後獅子」は文化8年(1811)に、歌舞伎舞踊の曲として一夜にして作曲された逸話を持つ、長唄の人気曲です。越後から出稼ぎに出る大道芸の少年たちをモチーフに、越後風物を織り込んで唄います。全体に華やかで、終盤に向かってどんどん盛り上がり、最高潮のまま曲を終えるという、実に旨い作りに。三味線と囃子の見事な掛け合いにもご注目！

旅人 日本遺産大使 マーティ・フリードマン

出演者



1 桂吉坊 (落語)



2 井上安寿子 (京舞)



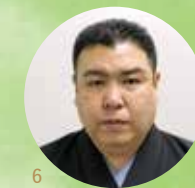
3 今藤長三朗 (長唄)



4 今藤政子 (長唄)



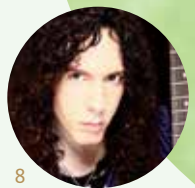
5 藤舎貴生 (笛)



6 中村壽慶 (小鼓)



7 中村翔哉 (大鼓)



8 マーティ・フリードマン

1 桂吉坊 (落語) かつら・きちぼう / 平成11年1月10日桂吉朝に入門、同年3月初舞台。高校を卒業後、桂米朝(人間国宝)の元へ内弟子として修行。平成15年内弟子を終える。落語の他、古典芸能の舞台に関わり、歌舞伎や浄瑠璃の脚本なども手がける。落語家として生きてる事自体が生業であり、それに関わる芸事全般が趣味と言っても良い。

この仕事が好き 舞台は一瞬。藝は代々。

2 井上安寿子 (京舞) いのうえ・やすこ / 京舞井上流五世井上八千代の長女。曾祖母・四世及び五世八千代(いずれも人間国宝)に師事。京都造形芸術大学卒業。「葉々の会」主宰。八坂女紅場学園舞踊科教師。第50回なにわ芸術祭新進舞踊家競演会新人賞、平成27年度京都府芸術新人賞、平成28年伝統文化ポラ賞奨励賞受賞。趣味は舞台鑑賞(歌舞伎、演劇、石見神楽など)。

この仕事が好き 舞っている最中、お客様と同じ空気を共有できた瞬間が好きです。気の高ぶりを感じられた時が一番嬉しく、楽しい。

3 今藤長三朗 (長唄) いまふじ・まさこ / 清元三味線方・清元美治郎の長女。東京都出身。長唄を伯父の今藤政太郎(人間国宝)に、囃子を祖母の藤舎せい子に師事。東京藝術大学邦楽科を長唄囃子専攻で卒業。以降は長唄唄方に専念。東京を中心に演奏会や舞踊会、NHK放送等に出演。国立音楽大学非常勤講師。長唄ひなの会同人。飲み食べ歩きとお笑い鑑賞が好き。

この仕事が好き 共演者同士が影響を受け合いながら、模索し一つの曲を創り上げていく時間が好きです。演奏中、お互いの息や気配で会話しながら演奏が上手くいったときは、本当に楽しい！

4 今藤政子 (長唄) いまふじ・まさこ / 清元三味線方・清元美治郎の長女。東京都出身。長唄を伯父の今藤政太郎(人間国宝)に、囃子を祖母の藤舎せい子に師事。東京藝術大学邦楽科を長唄囃子専攻で卒業。以降は長唄唄方に専念。東京を中心に演奏会や舞踊会、NHK放送等に出演。国立音楽大学非常勤講師。長唄ひなの会同人。飲み食べ歩きとお笑い鑑賞が好き。

この仕事が好き 共演者同士が影響を受け合いながら、模索し一つの曲を創り上げていく時間が好きです。演奏中、お互いの息や気配で会話しながら演奏が上手くいったときは、本当に楽しい！

5 藤舎貴生 (笛) どうしや・きしよ / 邦楽囃子方・藤舎呂悦の長男。京都府出身。東京芸術大学音楽学部卒業。演奏、作曲、公演プロデューサーと多岐にわたる活動。企画・作曲した口語体による三味線音楽CD「幸魂奇魂」(作詞松本隆、朗読市川染五郎、若村麻由美)にて第54回日本レコード大賞企画賞受賞。趣味は水草水耕(アクアリウム)、舞台鑑賞創造、車、時計。

この仕事が好き 美術品の様に半永久的に後世に残す事が出来ない舞台芸術だからこそ、その一瞬に演者のエネルギーが集約し、咲き散る所に魅力を感じます。

6 中村壽慶 (小鼓) なかむら・じゅけい / 邦楽囃子方・三代目家元中村壽鶴の長男。京都府出身。幼少より父および藤舎せい子(五代目藤舎品船)に師事。17歳より演奏活動開始。2000年、二代目中村壽慶襲名。現在、関西を中心に歌舞伎や演奏会、日本舞踊の会等に出演。今秋、四代目家元中村壽鶴を襲名予定。仕事が好きなので、趣味も仕事。

この仕事が好き 自分自身がとても満足いく演奏が出来た時に、お客様から拍手や「良かったです」と声を掛けて頂いた時にはとても幸せな気分になります。

7 坂本博司 さかもと・ひろし / 宇治市歴史資料館元館長。京都市出身。現在も同資料館に勤務。江戸時代の宇治を扱った展覧会や普及事業に携わる。宇治茶は同館の主要テーマの一つ。著書に『大名と茶師「緑茶の時代」』(ともに同館発行)など。

この研究が好き 昭和50年代前半に採録された「地域の年寄たちが記憶する歌」に出会ったのがきっかけ。思いのほか多様な音源は、肉声の主の寿命ともに消え失せてゆく定めにあることはすぐに見当がついた。新しいタイプの歴史資料との出会いであり、格闘のはじまりだった。でも気が付くと、テーブルの向こう側の彼らとの対話が講演の定番の一つに加わっていた。

8 マーティ・フリードマン ギタリスト・作曲家・プロデューサー。米ワシントンDC出身。世界的ヘビメタバンドのギタリストとして度々来日し、日本通に。2004年に活動拠点をアメリカから日本へ移す。テレビ・ラジオ・CM・映画など様々な角度でマルチアーティストとして活動。趣味は日本語の勉強、旅行、ファッション。2016年11月より日本遺産大使。

日本遺産が好き 日本遺産に認定された場所で行った感動的な場所が多く、一つ一つ行きたいと思う。日本の魅力、日本の素晴らしさ、そして日本らしさを全世界に伝えられるように頑張りたい。

